

早春行

王維

紫梅発初遍 黄鳥歌猶澀。
誰家折楊女 弄春如不及。
愛水看妝座 羞人映花立。
香畏風吹散 衣愁露沾湿。
玉闥青門裏 日落香車入
遊衍益相思 含啼向彩帷。
憶君長入夢 歸晚厚生疑。
不及紅薈燕 雙棲緑草時。

あたり一面 紫梅が咲いている
雌を慕って囀(さえず)る 春告鳥(うぐいす)のくぐもった初音(はつね)よ
道すがら 楊(かざみぐさ)を手折(たお)った乙女は
ゆらゆら 春を惜しんで歩いている
水にうつろって 恥らう面(おも)に花が映えるとき
すこやかな純潔は ちじに 風にかき乱される
露に湿って 汚(けが)されるのを畏れているのか
夕日にきらめく香車は 誘(いざな)われて
しずしずと さぐるように 門を入っていく
つかのま 柔肌(やわはだ)を ほてらせながら
あの夫(ひと)を受け入れている 目もあやな帷(とぼり)にひらめく秘事(ひめごと)
あの夫(ひと)は離(か)ゆとも 繫(つな)ぎとめようとする うみくずれた夢
夜遅く目覚めては 妬(ねた)ましきに向かう 静かなわななき
一羽だけ残された燕(つばめ)の 紅色に染まった巢の孤闥(ぬけがら)といたら
緑草の住処(すみか)に仲よく番(つがい)で暮らす かけがえのない絆にほど遠いのだから

[訳者註]

この「早春行」に、中国の魂魄説とグノーシスの靈魂觀との同一性から、男性の魂の飛翔と女性の地上への愛（男の^{きが}性と女の^{きが}性）を読み取ることもできるようです。いまの訳者には、二見(にけん)*という態度からは、ほど遠い所にいますから、穿(うが)ちすぎのように思われますが。漢詩に誤読と深読みはつき物でしょう。ここでは、王維の、若き日の珍しい部類の作品を味わおうと心がけただけです。——パウワウおじさん

05/09/27 意識ス

* 二見……あらゆるものごとを二つに分けて考える相対的な見方。高ずれば、人生のすべてを二元論の尺度で捉えるため、本当の姿が分からなくなる。